

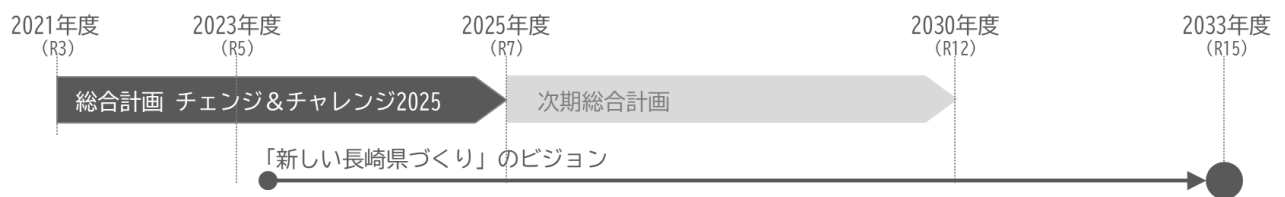
「新しい長崎県づくり」のビジョンについて

1 策定の目的

県内外の多方面から選ばれる「新しい長崎県づくり」を県民と一緒に実現するため、概ね10年先の長崎県が目指すべき姿とその実現に向けて取り組む施策の方向性を示し、県民との共有を図るとともに、県外へも発信して長崎県のPRを図る。

2 長崎県総合計画の一部見直しとの関係

- 県政運営の基本計画として、2021年度から2025年度までの5年間の期間として定めた長崎県総合計画「チェンジ&チャレンジ2025」については、新型コロナウイルス感染症の影響など社会経済状況の大きな変化を踏まえて、一部見直しを行うこととしている。
- 「新しい長崎県づくり」において、重点的に取り組む分野の施策のうち、今から取り組む必要のある施策について、総合計画の一部見直しに反映させる。



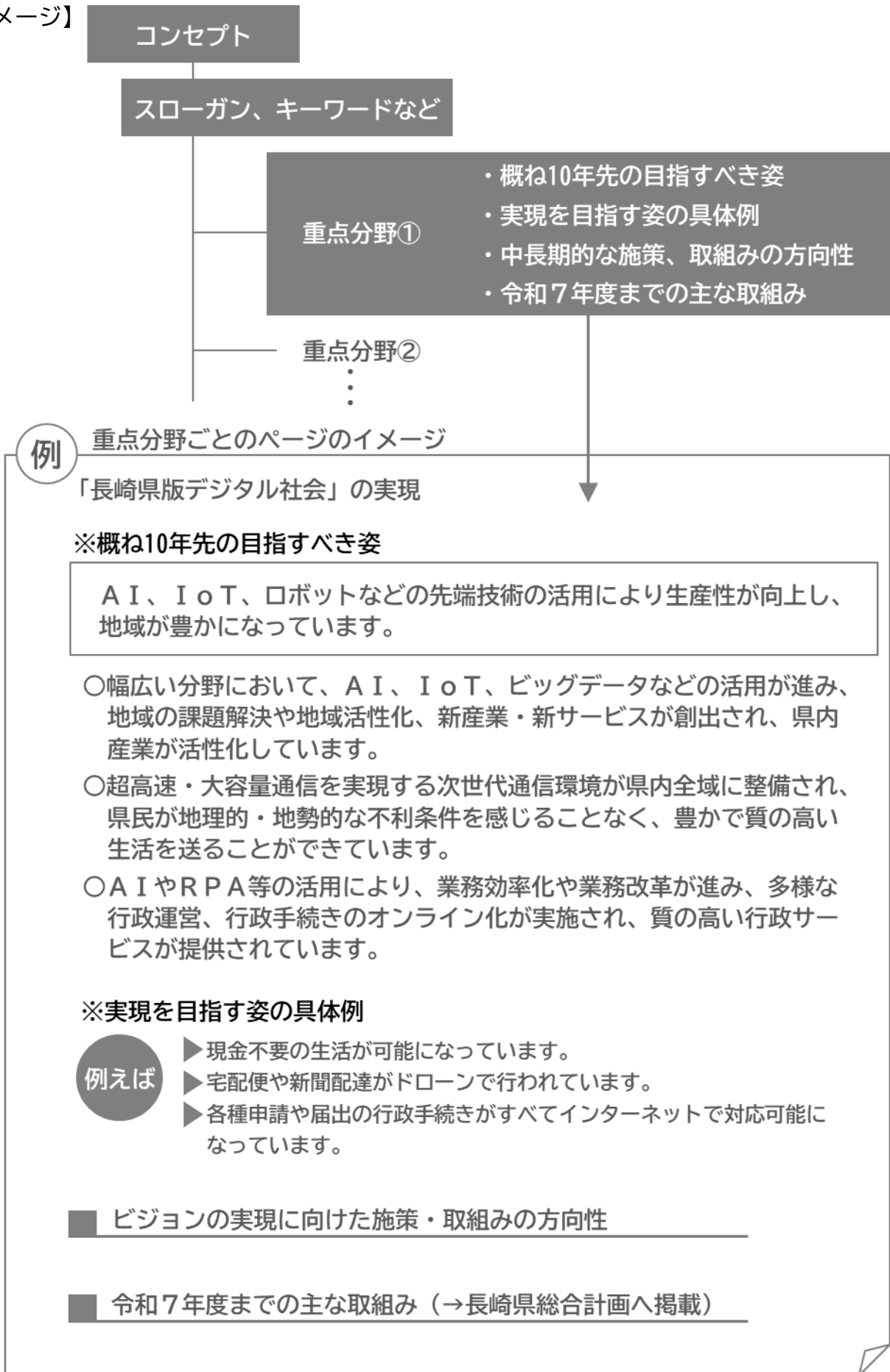
3 ビジョンの構成（案）

- ビジョンの全体を貫く基本的な考え方（コンセプト）
- コンセプトを分かりやすく県民等に発信し共有するためのスローガン、キーワードなど
- 重点分野ごとの概ね10年先の目指すべき姿とその実現に向けて取り組む施策の方向性

※重点分野は、令和5年度重点テーマをベースに検討する。

- ①子どもが夢や希望を持って健やかに成長できる社会の実現【最重要】
- ②全世代の豊かで安全・安心な暮らしの確保
- ③みんながチャレンジできる環境づくり～「みなチャレ長崎」の推進～
- ④「長崎県版デジタル社会」の実現
- ⑤選ばれる長崎県のためのまちづくり、戦略的な情報発信・ブランディング

【イメージ】



4 ビジョン検討の前提として共有しておきたいこと

【世界や国内の現状・潮流】

将来を見通すことが困難な時代、従来の社会経済システムが行き詰まりをみせる中で、新型コロナウイルス感染症のパンデミックを契機に、持続可能性や幸福や重視する新たな社会経済システムへの転換が図られようとしている。また、感染症の影響とデジタル化の加速により、人々の意識・行動に変化が生じている。

- グローバル化の拡大、デジタル化の加速や脱炭素化へ向けた社会・経済のグリーン化など、様々な物事の変化が激しく、将来が容易に見通せない時代となっている。この15年間をみても、金融危機、震災、感染症、戦争、物価高騰など想定外の出来事が次々と起こり、そうした影響により人々の生活も厳しさが増す状況となっている。
- 環境問題、貧困、不平等・格差、多様化・複雑化を増す社会状況など、世界の様々な課題の解決に向けて、SDGs（持続可能な開発目標）が国連で採択され、各国がその達成を目指しているほか、世界経済フォーラム（ダボス会議）の2021年次総会のテーマが「グレート・リセット」とされるなど、従来の経済成長を中心としたシステムから、人々の幸福を中心としたシステムへの転換が示唆されている。
- 国が令和4年に策定したデジタル田園都市国家構想基本方針においては、その意義・目的として、以下のようなことが示されている。
 - ・ 様々な社会課題に直面する地方にこそ、テレワークや遠隔教育・遠隔医療など新たなデジタル技術を活用するニーズがあることに鑑み、デジタル技術の活用によって、地域の個性を活かしながら地方の社会課題の解決、魅力向上のブレークスルーを実現し、地方活性化を加速する。
 - ・ 地方に住み、働きながら都会に匹敵する情報やサービスを利用できるようになるなど、デジタル技術を効果的に活用して、地方の「不便・不安・不利」の言わば3つの「不」を解消し、魅力を高める。
 - ・ 暮らす場所、年齢、性別にかかわらずあらゆる国民が、それぞれのライフスタイルやニーズに合ったゆとりと安心を兼ね備えた心豊かな暮らしを営むことができ、地方における仕事や暮らしの向上に資する新たなサービスの創出、持続可能性の向上、Well-beingの実現等を通じてデジタル化の恩恵を国民や事業者が享受できる社会、いわば「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す。
- デジタル化の進展により、働く場所や時間にとらわれない柔軟な働き方が可能になっているとともに、自分のやりたい事にチャレンジしやすい環境になってきている。

【長崎県の置かれている状況】

- 「まち」の佇まいが大きく変わり、また、産業構造にも大きな変化が生じており、まさに、100年に1度の大きな変革の時期を迎えている中、その先も見据えるべき大事な時期となっている。

■「まち」が変わる

<長崎・西彼地域>

西九州新幹線開業や長崎駅周辺の開発、長崎港松が枝国際観光船埠頭の2バース化、長崎スタジアムシティプロジェクト など

<県北地域>

特定複合観光施設（IR）の誘致、佐世保港浦頭地区の整備、佐世保相浦工業団地の整備 など

<県央地域>

西九州新幹線開業や諫早駅・新大村駅周辺の開発、南諫早産業団地や第2大村ハイテクパークの整備、長崎空港の24時間化に向けた取組み など

<県南地域>

国立公園雲仙の魅力ある上質な滞在空間の創出、島原道路の開通、農地の基盤整備 など

<離島地域>

再生可能エネルギーのしまづくり、相次ぐホテルの建設、ワーケーションの誘致 など

■「産業」が変わる

- ・海洋エネルギー関連、AI・IoT・ロボット関連、航空機関連、半導体関連の成長分野の産業創出・育成、スタートアップ支援 など

- 離島・半島が多く、全国に先駆けて進む人口減少・少子高齢化をはじめとして様々な地域課題がある、いわゆる「課題先進地」であるが、テクノロジーの発達等により、見方を変えると、新たなソリューションを生み出す可能性を秘めている絶好の場であるともいえる。
- 美しく豊かな自然と、そこから生まれる美味しい食べ物、世界と交流しながら築いてきた多様な歴史や文化、やさしさを持つ人たちとゆたかなコミュニティなど、誇れる資源を有している。
- 県内外の多方面から選ばれる長崎県になるためには、地域間競争が激しさを増し、また、デジタル技術を活用した情報発信のあり方も目まぐるしく変化する中で、長崎県ならではの魅力や資源を戦略的に発信していき、県内外の皆様に、本県の魅力や可能性を感じていただくことが求められている。